会議録

会議の名称	令和6年度第2回西東京市立田無第三中学校建替協議会
開催日時	令和6年10月17日(木曜日)午前9時から
開催場所	田無分庁舎イングリッシュビル3階第3・4会議室
出席者	<p>【委員】大久保会長、高橋副会長、加藤委員、阿部委員、山下委員 大森委員、橋爪委員、藤江委員 (オンライン参加)伊藤(俊)委員 (欠席)伊藤(慎)委員、本田委員、瀬沼委員</p> <p>【事務局】岡本教育部特命担当部長、飯島副参与兼教育企画課長 佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、鈴木教育企画課施設係長 中屋教育企画課施設係主査、関澤教育企画課企画調整係主任 澁谷教育企画課企画調整係主事、坂本公共施設マネジメント課長 陸名公共施設マネジメント課マネジメント担当主査 稲村公共施設マネジメント課マネジメント担当主査 渡海公共施設マネジメント課マネジメント担当主査 (欠席)栗林教育部主幹</p> <p>【傍聴人】3人</p>
議題	<p>議題1 第1回会議の会議録について</p> <p>議題2 令和6年度における建替協議会検討スケジュールについて</p> <p>議題3 学校を核としたまちづくりと学校複合化について</p> <p>議題4 田無第三中学校の将来像・建替コンセプトについて</p> <p>議題5 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 田無第三中学校建替事業 基本構想・基本計画(骨子案)</p> <p>資料2 令和6年度田無第三中学校建替協議会検討スケジュール(案)</p> <p>資料3 学校を核としたまちづくりと学校複合化について</p> <p>資料4 田無第三中学校の将来像・建替コンセプトの検討について</p>
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><開会></p> <p>議題1 第1回会議の会議録について 第1回会議の会議録内容について、各委員に異議がないことを確認し、第1回会議会議録は承認された。</p> <p>議題2 令和6年度における建替協議会検討スケジュールについて</p> <p>○事務局 (資料1、資料2について説明)</p> <p>○会長 事務局より、令和6年度における建替協議会検討スケジュールについて説明があった。ご質問を伺う。 →質問特になし。</p>	

議題3 学校を核としたまちづくりと学校複合化について

○事務局

(資料3について説明)

○会長

事務局より、学校を核としたまちづくりと学校複合化について説明があった。ご質問を伺う。

○委員

前回、校舎の建替えを校庭側に行うことが考えられるとの話があったが、その場合西原総合教育施設のグラウンドを使用する期間と、グラウンドが中学生の使用に耐えるかどうかお聞きしたい。

○事務局

西原総合教育施設のグラウンド利用は4年間の利用を考えている。グラウンドは田無第三中学校の校庭より狭い。そのためこれまでと同様の教育活動は難しい。

○委員

4年間だと中学校3年間でこれまでと同規模の校庭がない学校生活を過ごす生徒が出るため、別に良い方法があるのではないか。西原総合教育施設の場所で建替えるなどで解決できることもあると思うが、そのような検討をしてきたのか。

○事務局

西原総合教育施設での建替えは、学びの継続では効果があるが、敷地面積やスケジュール・法令における課題がある。田無第三中学校の建替え先は現時点では決定していない。

○委員

学校を核としたまちづくりについては、生徒にとって何が良いかを考えて慎重に考えていただきたい。また建替え先について、候補のメリット・デメリットを提示していただき、この協議会の中で協議していきたい。

○委員

今回提示していただいた複合化の仕方は合築に近いように感じる。施設間の相互利用をしない合築では効率化に限界がある。公共施設と学校を相互利用・共用するようになると交流も活発になる。どういう機能を学校施設と複合しようと考えているか。

○事務局

学校にとって親和性の高い公共施設の機能を複合化として共用したいと考えている。共用する機能としては、図書館・集会所・児童館・学童クラブ・保育園が有効的に活用を図れると考えている。学校教育に支障がないようにゾーニング・セキュリティ面を検討していく必要がある。

○委員

複合化のパターンについて、地域の人々の利用を考え公共施設部分を学校施設の1階2階に設置している自治体（品川区）もある。

○委員

学校を核としたまちづくりについて、できあがった後の維持管理はどのように行うイメージか（庁内横断的か、学校中心に進めていくか）。効率化を考えると学校の中に他の公共施設機能を集約するのは合理的な在り方である。学校を核としたまちづくりを行う場合、学校に公共施設を入れていくだけではなく、生徒が学校から出ていくといった教育の在り方を保証していくとより良いと思う。

○事務局

学校の建替えが終わった後の維持管理については市長部局にて検討していく。維持管理に関して、学校の生徒と教職員の方の負担が現在より増えることがないように、むしろ減るように努力をして、民間の力を借りることなども検討していく。

○委員

西原総合教育施設や保育園などの機能を田無第三中学校に取り込むと田無第三中学校の建替規模が大きくなるように感じる。老朽化した各施設の今後の検討として、保育園の建替えなども検討していくのか。それとも田無第三中学校に取り込むことで建替えは行わないのか。

○事務局

この田無第三中学校エリアについて、全ての公共施設の機能を取り込むのではなく、学校教育として必要な機能は確保し、かつその機能を妨げない範囲で複合化を進めていく。西原総合教育施設の建替えについては別途進めていく必要がある。

○副会長

学校を核としたときに小学校・中学校のそれぞれに持たせる役割のイメージはあるか。例えば、中学校は市役所のワンストップの窓口、小学校は学童保育を一体化するなどが考えられる。この点に関して市としての考えはあるか。また田無第三中学校の学区域で小学校はけやき小学校のみであるが、その他の学区域において小学校・中学校に持たせる役割を柔軟に変えていく予定なのかについても確認したい。

○事務局

学校を核としたまちづくりの大きな概念としては小学校・中学校の区別はつけていない。その上で、中学校での複合化をどう考えるか、地域のキーステーションとして、今回の田無第三中学校の建替えを考えていく必要があると思っている。一方で地域（次回建替えの保谷第一小学校がある青嵐中学校エリア）によって、求められている機能を小学校の建替え時に学校施設内に取り入れていきたいと思う。

議題4 田無第三中学校の将来像・建替コンセプトについて

○事務局

(資料4について説明)

グループワークにおけるアンケートについては、後日メールにて送付させていただきます。

○会長

事務局より、田無第三中学校の将来像・建替コンセプトについて説明があった。

『田無第三中学校の将来像』に関するグループワークを始める前にご質問を伺う。

→質問特になし。

○グループワーク（田無第三中学校の将来像）発表

【A グループ】

西原の地の特性を生かした学校。

自然を地域の特性とし、多摩六都科学館を学校づくりのイメージとする。

からだも心もバリアフリーの学校。(多様性を受け止められる学校)

生徒のいやしができるような学校。

近代化が図られている学校 (エレベーター・タブレット端末を使用した最新の教育など)。

開放的であって、目が行き届く学校。

こどもから地域に触れ合える学校。

卒業後や地域に転入してきた方が行きたくなる学校。

生まれてから年をとっても学べる学校。(いつでも行けば何かが学べる学校)

開放面・学習面・安全面が保障される学校。

地域の特性を生かしたイベントを行える学校。

巨大地震等に備えた防災拠点になる学校。

【B グループ】

テーマ : 世代がつながる

地域のコミュニティの場 (現状、エリアに地域センターのような施設がない。)

情報メディアセンターの機能 (図書館、カフェ、地域の方の専門性を生かした場 (茶道・理科・生け花))

入りやすい空間 ⇄ 防犯的な視点 左の2点をどのようにつなげるか。

心がつながり、やさしい気持ち、思いやりの気持ちをもてる学校。

学年を越えたつながり／地域とのつながりがある学校。

議題5 その他

○事務局

本日の議事要旨は第1回会議と同様に後日メールで送付させていただき、委員確認後の第3回の会議で了承を得て公開とさせていただきます。

今回は11月6日(水)午前中を予定しており、他自治体(中野区立中学校)の学校視察を予定している。詳細については後日、ご連絡させていただきます。

<閉会>